

日々の祈り

2021年10月18日(月)~23日(土)

宮崎中部教会



<はじめに>

それぞれの日々の生活の中で、神さまに心を向け、御言葉を聞き、祈りをもって過ごしましょう。教会のために、兄弟姉妹のために、隣人のために、祈りを合わせましょう。

<使い方>

毎日の御言葉を、可能であれば声に出して、二回以上読んでみましょう。御言葉をじっくりと味わい、聖霊に導かれるままに、祈りの時をもちましょう。

<今週の祈りの課題>

- ・宮崎中部教会の兄弟姉妹、またそれぞれの家族や大切な人々の健康と生活が守られるように。
- ・宮崎の地に住む人々の救いのために。
- ・迫害、貧困、暴力、病などに苦しむ国にある人々が守られるように。そのための働きに従事する人々に助けがあるように。

18日(月)

ルカによる福音書 18章 31節

イエスは、十二人を呼び寄せて言われた。「今、わたしたちはエルサレムへ上って行く。人の子について預言者が書いたことはみな実現する。」

昨日の御言葉を思い巡らしましょう。わたしたちの罪の重荷を全て担い、父なる神さまの救いのご計画を、愛と憐れみの御心を、この世に実現して下さいました。その方こそ、イエス・キリストです。この方を仰ぎ、ほめたたえましょう。この方の十字架の苦しみこそ、わたしたちの罪の贖いであり、この方の復活こそ、わたしたちの永遠の命の保証です。神の御子イエスさまにおいて、わたしたちの救いは実現しました。

19日(火)

使徒言行録 26章 22~23節

ところで、私は神からの助けを今日までいただいて、固く立ち、小さな者にも大きな者にも証しをしてきましたが、預言者たちやモーセが必ず起こると語ったこと以外には、何一つ述べていません。つまり私は、メシアが苦しみを受け、また、死者の中から最初に復活して、民にも異邦人にも光を語り告げることになると述べたのです。

パウロが捕らえられた時の弁明の一部です。パウロは「預言者たちやモーセが必ず起こると語ったこと」、つまり旧約聖書に記されていること以外は、何一つ述べていないと断言します。そしてその内容こそ、「メシアが苦しみを受け、また、死者の中から最初に復活して、民にも異邦人にも光を語り告げることになる」ということ。つまり、イエスさまの十字架と復活の出来事なのです。これは、必ず起こると言われたとおりに起こり、そのゆえに今わたしたちは、イエスさまの救いの光に照らされて歩んでいるのです。

20日(水)

イザヤ書 53章 5節

彼が刺し貫かれたのは／わたしたちの背きのためであり／
彼が打ち砕かれたのは／わたしたちの咎のためであった。
彼の受けた懲らしめによって／わたしたちに平和が与えられ／
彼の受けた傷によって、わたしたちはいやされた。

イエスさまを鞭打ち、茨の冠を被らせ、侮辱し、平手で打ったのは(ヨハネ 19:1~3)、そして十字架に釘で打ち付けたのは、わたしたち自身でありました。神さまに逆らい、背き、退けようとするわたしの罪が、イエスさまにこの苦しみを負わせ、死に追いやりました。しかし、救い主であるこのお方は、そうしてわたしたちの罪をすべて担って下さり、ご自分の受難と死を通して、わたしたちに平和を与え、わたしたちをいやして下さいます。

21日(木)

詩編 41編 5節

わたしは申します。「主よ、憐れんでください。あなたに罪を犯したわたしを癒してください。」

わたしたちは、憐れみを求めることしか出来ません。闇の中に座り込み、自分自身の罪に苦しみ、傷つき、嘆き、叫ぶことしか出来ません。しかし、「主よ」と呼ぶことを知っています。救いをどなたに求めれば良いかを知っています。そして、天の父なる神さまは、わたしたちの叫びをほうっておかれることなどなく、必ず救って下さるお方です。わたしたちは、この神さまにこそ、この神さまにのみ、叫び求めていくべきです。「主よ、憐れんでください。」

22日(金)

イザヤ書 35章 5~6節

そのとき、見えない人の目が開き／聞こえない人の耳が開く。
そのとき／歩けなかった人が鹿のように躍り上がる。口の利けなかった人が喜び歌う。荒れ野に水が湧きいで／荒れ地に川が流れる。

次の主日礼拝の御言葉です。救いの実現の時を示す、旧約聖書の預言です。罪に捕らわれ、滅びに向かい、闇の中を歩いていた者が、救いの実現の時には、目を開かれて光を見、耳を開かれて福音を聞き、立ち上がって主の御許へと歩み出て、絶望を叫んでいた口で賛美の歌を歌うようになります。この救いを実現する方こそイエス・キリストであると旧約聖書は指し示し、新約聖書は証言しています。

23日(土)

ルカによる福音書 18章 43節

盲人はたちまち見えるようになり、神をほめたたえながら、イエスに従った。これを見た民衆は、こぞって神を賛美した。

明日の主日礼拝の御言葉です。18章では、神の国、永遠の命、救いの恵みに与るのは、子どものように神の国を受け入れる人であり、自分が依り頼むすべてのものを捨てて、神さまにのみ心に向けて、イエスさまに従う人である。そう教えられました。それは、罪に捕らえられたわたしたちにはとても困難なことです。しかし、イエスさまは言われました。「人間にはできないことも、神にはできる。」神の御子イエスさまは、十字架の受難と死、そして復活によって、わたしたちの救いを実現することがお出来になります。目が見えず座りこんでいた人が、イエスさまに憐れみを求め、見えるようになり、イエスさまに従ったことは、まさにそれが真実であることの「しるし」です。

聖句:日本聖書協会『聖書 新共同訳』